



## “2023年夏を駆けぬけた飯田高校生”

9月となりましたが今年の異常気象、この“猛暑”“酷暑”がまだまだ続きそうな状況です。本校では8月23日より学校が再開しましたが、3年生はいよいよ進路実現に向けてギアを入れ替えて、補習授業や大学のオープン・キャンパスなどに参加したり、また1、2年生は、出された課題や班活動などで忙しくも充実した25日間の夏休みを過ごしたようです。そんな中、日本を飛び出し海外でのプログラムに参加した生徒の様子を紹介します。

### 米国派遣 中高生記者

この事業は、信濃毎日新聞を扱う長野県新聞販売共済厚生会が、県内20名の中高生を記者としてアメリカに派遣するもので、各人テーマを持って、ワシントンとニューヨークで1週間、取材活動をしました。本校では2年生の木下理花さんが参加しました。テーマとしたのは、“若者の政治参加”と“自己表現”、多くの若者たちへのインタビューを通して、アメリカの若者は自己肯定感が高く、また学校でも地域でも議論をして自分の意見を表明するのが当たり前であることに驚いたとのこと。その一方で、食における日本の安全性を再認識するとともに、ニューヨークのなんとも言えない匂いには閉口したようです。



### カンボジア・スタディツアー

飯田市公民館が主催したこの事業に、3名の生徒（佐藤悠君、山本乃真さん、小澤千遥さん、ともに2年生）が参加しました。アンコールワットに近い“セムリアップ”に1週間滞在し、異国において自分たちの生き方・在り方を見つめ直し、今後に活かしていくことがこの事業の目的です。カンボジアは、国土が荒廃し、多くの人々が虐殺されるなど暗黒の時代がありましたが、今はその面影はなく、活気に満ち溢れていたとのこと。また、学校に入りきれない子供たちが、地面に字を書いて学んでいた姿が忘れられないとも話してくれました。1週間でしたが、現地を見たこと、感じたことを大切にして、今後に活かしてもらいたいと思います。



### ボーイスカウト世界大会

羽場功太郎君（2年生）と畑中新君（1年生）は、世界各国から3万人余りの若者が集まって韓国で行われた「第25回世界スカウトジャンボリー大会」に日本団の一員として参加しました。各国の若者との交流を通して国際理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーションの大切さを改めて実感したようです。また、外国人の日本に対する興味関心の高さにも驚いたとのことでした。

